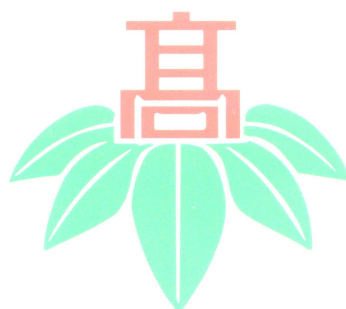


令和4年度

分掌・学年・教科の  
成果と課題



秋田県立六郷高等学校

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名                      総務部

1 本年度の重点目標

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各分掌との連絡を密にして、儀式、行事等を円滑に遂行する。</li> <li>(2) P T A や地域と連携し、各事業を推進することでコミュニティスクールとしての前進と教育活動の充実を図る。</li> <li>(3) 災害時における生徒の安全確保に向けて尽力する</li> </ul> |
|---|

2 目標達成のための具体的方策

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各行事に際して円滑な企画と運営に当たる。</li> <li>(2) コミュニティスクールとして、さらに地域と連携することで教育活動の充実を図る。</li> <li>(3) 緊急時における生徒の安全確保に向けて、平素より安全な校内環境維持に努める。</li> </ul> |
|---|

3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）  
 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 各行事の企画や運営に当たっては、必要に応じて学校や各分掌と相談しながら進めることができた。	A
(2) コロナ禍において、C S としての活動を可能な限り実施できた。今後、学校運営協議会や六高サポーターの会との連携のあり方について模索していく必要がある。	B
(3) 積雪時の避難訓練では負傷者カードを用いるなど、予測できない実際の状況に近い訓練を実施したことで、生徒の積極的な参加が見られた。	A

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各行事の反省・意見を踏まえ、より円滑な遂行を目指す。</li> <li>(2) C S を通して小中学校や地域との連携を進める。<br/>C S 通信や行事予定の定期的なアップロードを行う。</li> <li>(3) 地域と連携した避難訓練実施のあり方を更に考える。<br/>避難経路での非常口の活用を検討する。</li> </ul> |
|--|

5 その他、要望等

特になし。
-------

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 生徒指導部

## 1 本年度の重点目標

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な生活習慣の確立</li> <li>(2) 事故及び問題行動の未然防止</li> <li>(3) 規範意識の高揚と豊かな心の育成</li> </ul> |
|---|

## 2 目標達成のための具体的方策

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な生活習慣の確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 挨拶の励行</li> <li>② 端正な整容の維持</li> <li>③ 遅刻防止</li> <li>④ 「ベル即授業」の実践</li> </ul> </li> <li>(2) 事故及び問題行動の未然防止 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 校外における問題傾向生徒の早期発見・早期指導</li> <li>② 保護者及び地域諸機関との連絡強化</li> <li>③ 問題を抱える生徒の個別指導の徹底</li> </ul> </li> <li>(3) 規範意識の高揚と豊かな心の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>① マナー向上とルールを守らせる指導</li> <li>② 職員の共通理解による指導の徹底</li> <li>③ 研修の充実</li> </ul> </li> </ul> |
|--|

## 3 今年度の取組における成果と課題

取組と成果	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部および各学年の協力のもと、登下校指導や昼休みの校内巡視がなされ、基本的な生活習慣の確立に向けて適切に指導することができた。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ事案に対して、生徒支援委員会や学年部で情報を共有し、速やかに対応することができた。また、職員研修による職員の共通認識も確認できた。</li> <li>・問題行動について、管理職の指示のもと学年部との連携をとりながら適切に対応することができた。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のSNS等の利用について、情報モラル教室や集会等で注意喚起を行ってはいるが、まだ浸透しきれていない部分も見られた</li> </ul>	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の生徒指導上における問題行動のほとんどが、SNS利用による人間関係の悪化がもととなっているため、情報モラルやいじめ等に関する指導や講習会を早い時期に設け、機会があるごとに、いじめは絶対に許されない行為であること、卑怯で恥ずべき行為であることを強く認識させる。</li> <li>・3年に1回実施しているデートDV予防講座を、1年生を対象に長期休業前に毎年実施する計画を立てる。</li> <li>・テストバッテリーM2+の活用について、専門家を招き校内研修を実施する。</li> </ul> |
|---|

## 5 その他、要望等

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から2年間、本校が大仙仙北地区高等学校生徒指導連絡協議会の事務局になるため、職員の協力体制が必要。</li> </ul> |
|---|

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名                      教務部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 生徒の実態に即した観点別評価に基づいた、校内規程の見直しを行う。  
 (2) 業務の最適化、効率化を図り、適正な事務作業の運営を行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 新しい教育課程を実施していく中で、これまで行ってきた観点別評価から新しい観点別評価へスムーズに移行できるように、本校生徒の特性を踏まえつつ評価のあり方について検討し、校内規程の見直しを行う。  
 (2) 共有ドライブの利点を生かし、分掌内での連絡調整の最適化を図り、適正かつ円滑に業務が行えるような環境を整える。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 観点別評価だけでなく、成績評価の内規を全体的に見直しを行い、改正できた。今後も生徒の実態に即した内規の見直しを行っていきたい。	A
(2) 時間割変更をGoogleフォームを使用し最適化、授業研修会でのjamboardの活用など業務の効率化、スリム化を図ることができた。今後は、新たな校務システムが導入されるため、これまで活用してきたものの取捨選択を考えていきたい。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・成績評価の在り方を検討し、適正な評価ができるようにする。
- ・これまで学校独自のシステムと新たな校務システムで活用するもの、しないものを考え校務が円滑に進むようにする。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 \_\_\_\_\_ 特別活動 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 生徒会執行部を中心に学校行事の主体的な運営を支援する。  
 (2) 部活動の加入を促進し、活動環境を整え、活性化を図る。  
 (3) 各委員会の自主的な活動を積極的に行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) ①生徒会執行部を中心に朝の挨拶運動や校内での挨拶を励行する。  
 ②生徒会執行部の発行する「SCHOOL NOW」を通じて、日常生活や学校行事などを各自が振り返る機会とする。  
 ③校外で行われる交流事業・各種会合への積極的な参加を促す。  
 (2) ①1年生への部活動紹介や体験入部など、既存の活動をより精度を高めて実践し、加入促進に繋げる。  
 (3) ①文化的行事・体育的行事とも各委員会を中心に計画・実践し、生徒が活動を通して達成感を味わえるよう配慮する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
生徒会による挨拶運動は昨年に比べ、積極的に挨拶運動に参加してもらったが、コロナ禍で完全実施とまではいかなかった。また「SCHOOL NOW」も予定通り、学校行事が行われ、定期的に発行することができた。校外での交流はほぼ行われなかったが、全県総体の開会式に生徒会執行部が校旗を掲げ参加することができた。	A
昨年より多くの生徒が入学したが、部活動加入率は60%弱と低く、特に女子生徒の加入率が低い。そのため目標達成はならなかった。しかしながら、自転車部の活躍で六郷高校の名を全国にとどろかせた。健闘を讃えたい。	B
学校祭は今年も一般客なしでの開催だったが、壁画やステージ発表など各クラスの持ち味が発揮できた内容で、盛り上がることもできた。クラスマッチや運動会も怪我人は出たものの、新たな種目など生徒の現状を踏まえた運営の工夫を行い、実施することができた。また、各行事とも生徒会を中心に、委員会や部活動の部員達が計画・実践し、行事の運営に協力してもらえてとても助かった。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

各部活動には入学後の部活動紹介で、活発なパフォーマンスを期待したい。また、クラスマッチや運動会で怪我人が出たので、学校行事の時期を移動するなどの見直しを考えたい。学校祭では一般公開に向けて新型コロナウイルス感染防止対策や公開内容を検討したい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 \_\_\_\_\_ 進路指導 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 学ぶこと・働くことの意義の理解と、正しい職業観・人生観の育成に努める。  
 (2) 生徒の多様な進路希望を実現させる体制を作り、適切な資料や情報を提供する。  
 (3) 保護者や地域とも連携し、個々に対応したきめ細かな進路指導を行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) ①進路ガイダンス、進路講話、合格体験発表等の実施。  
 ②職場見学、インターンシップ、社会人講話、キャリアパスポート等の実施。  
 (2) ①面接、調査等による個々の進路希望の把握。  
 ②進路情報(就職・進学)の早期提示と「進路の手引き」の活用。  
 ③面接指導、模擬試験、補習、添削等の計画的実施。  
 (3) ①三者面談、地域の人材等の活用。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準(秋田県教育委員会)

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス禍の中、各学年の発達段階に合わせた進路ガイダンス、職場見学、インターンシップ、卒業生講話、合格体験発表会等の各取組を時期やオンライン等の工夫もしながら企画、実施できた。</li> <li>・進路が内定した3年生と2年生が情報交換を直接行う機会を新しく設けられた。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望調査や面接で進路希望を把握し、全職員の協力での面接指導や添削指導、情報提供等を行い、大多数の生徒は早期に進路を決められた。</li> <li>・模試を行っても実力や置かれた状況等を理解できなかつたり途中で進路希望を変更したりして時間がかかった生徒もいた。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも三者面談等で家庭と綿密に連携をとりながら進路指導を行った。</li> <li>・模擬面接指導や進路行事等で地域の企業の方々からの御協力を得られた。</li> </ul>	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・進学希望者への指導を組織的に行う。
- ・3年生の進路決定に向けた3者面談の時期を検証する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 保健安全 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 保健関係機関や家庭との連携を図り、生徒の健康維持・増進に努める。  
 (2) 自分の健康に関心を持ち、基本的な生活習慣の確立を目指す。  
 (3) 「学校の新しい生活様式」に沿った衛生管理を徹底させる。  
 (4) 心の健康を維持するために教育相談の充実に努める。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 健康診断の結果を速やかに通知し、検査・治療が必要な生徒には多方面から継続的に指導を行う。  
 (2) 日々の健康観察や保健だより、講話等を通じて、健康管理や基本的な生活習慣の大切さに気づかせる。  
 (3) マスク着用や手洗い、手指消毒等の感染予防に努めるとともに、毎日の清掃や消毒で清潔な環境を保つ。(消毒セットと加湿空気清浄機の設置・換気・回し飲みや床に座っての食事禁止・ハンカチ持参)  
 (4) スクールカウンセラーと連携を図り、関係職員との連携を密にして生徒の心の問題に対処する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 長期休み前2回の結果の通知と「ほけんだより」を通して受診を促したが、受診率はあまり伸びていない。	B
(2) 「ほけんだより」の発行や講話等で健康の大切さを呼びかけた。講話はLHRの時間を使うため、学年(クラス)裁量のLHRの時間を確保したいという声が聞かれた。朝の健康観察は100%ではないものの習慣化している生徒が多い。一方で、登校してすぐに保健室を利用し早退するケースも見られた。	B
(3) 感染対策はほぼ定着していると思われる。抗原検査キットも有効に活用できた。清掃用具等を購入していただき、清掃活動がより円滑になった。	A
(4) スクールカウンセラーと連携し、保健室(養護教諭)と学年部が協力して対象生徒をサポートできた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- 朝のSHRでの健康観察の方法を工夫・改善し、感染予防や心身の健康問題の早期発見・早期対応に役立てる。  
 ○保健関係の講話の実施学年・時期を工夫・改善し、LHRの学年(クラス)裁量の時間を確保する。

## 5 その他、要望等

教室に設置している消毒セットと加湿空気清浄機を積極的に活用してほしい。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 \_\_\_\_\_ 研修部 \_\_\_\_\_

## 1 本年度の重点目標

- (1) 「基礎学力の定着・楽しく分かる授業」の実現に向けて、各種研修の機会を設ける。  
 (2) 他分掌と連携し、ICT研修、医療的研修等を実施し、教員の様々な指導力の向上を図る。  
 (3) 授業参観週間を拡充させ、研修機会の充実を図る。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) リモートを始め様々な研修を紹介し、参加者を募ると同時に、適宜、関係分掌等に声かけをする。  
 (2) 教務やICT委員会、保健部、生徒支援委員会等と連携し、ICT活用や、医療的研修（エピペン・発作時の対応対処法等）、問題を持つ生徒の支援研修等を実施する。  
 (3) 年2回の指導主事訪問等を活用し、授業参観週間を拡充し、参観した授業のコメントを速やかに閲覧できるよう工夫する等、それぞれの授業力向上に役立てる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) センター研修は、A～C研修に延べ10名の参加があったが、それ以外の研修には、コロナの件や、連絡の不徹底等の理由で十分に実現できなかった。	B
(2) 一部日程が合わず、次年度に繰り越しとなったものもあるが、保健安全部や生徒指導部と連携し、エピペンの研修会とテストバッテリーの研修会を実施できた。また、次の(3)に絡めて、授業でのICT活用を促すこともできたとは思いますが、実際の活用術の研修を実施できなかった。	B
(3) 予定より時期はずれてしまったが、1回目を指導主事訪問第2回目に合わせて、2回目は冬休み明けに実施した。どちらも期間を2回に分け実施し、最低1人2回授業を参観することとした。1回目は全員が2回以上、4回参観された方もいて、参観率100%を達成することができた。昨年は1回の参観すら全員達成ができなかったことを考えると、大いなる進歩と考えられる。2回目でICTの活用を促し、ちょっとした教科内での振り返りをお願いした。今年度は、まず、他の授業を参観し合うことが第一段階と考えていたので、その点は達成できた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・ さらに多くの先生方に、オンラインも含め様々な研修に参加していただけるような取組をしたい。小・中学校の授業参観を希望する意見もあったので、それも考えたい。
- ・ ICTも含め、他分掌と連携して研修会をさらに実施していきたい。
- ・ 今年度の成果を踏まえ、校内授業参観をさらにレベルアップし、教科内外のメンバーでの研究会等も考えたい。

## 5 その他、要望等

特になし。



令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 図書視聴覚情報 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 図書館利用を促進し、生徒の読書力向上を目指す。  
 (2) ホームページの充実を図る。  
 (3) 各教科との連携を図り、授業時の図書館活用を促進する。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 図書館からの情報発信を必要に応じて行い、図書館利用を呼びかける。  
 (2) 学校行事や学年、部活動等の活動に対し、寄稿を呼びかける。  
 (3) ICT機器の活用や調べ学習の場としての図書館活用を各教科に呼びかける。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 図書委員会により図書の貸借等、図書館運営がされたものの、時機を失せずしっかりと情報発信ができたと言いがたい。	B
(2) 各学年・分掌の先生方の協力のもと、各行事ごとにホームページの更新を行い、地域に情報発信することができた。	A
(3) 授業における図書館の活用については、資料の貸出や映像の提示等で利用されたものの、Wi-Fi環境が脆弱なためか限定的であった。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 選書については、アンケートにGoogleクラスルームを利用するなど工夫をし、興味を引くような本を購入する。  
 (2) ホームページの更新については、引き続き各学年や各分掌の先生方に依頼し、早めに情報発信できるような体制を整える。  
 サーバー内を整理し、動画像等のデータを活用しやすいようにする。  
 新しい校務支援システムへスムーズに移行できるような取り組みを行う。  
 (3) 授業に活用できる図書や資料を購入し、配架する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 1年 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な生活習慣を確立させる。  
 (2) 進路意識を高め、主体的に学習に取り組む態度を養う。  
 (3) 他者を思いやり、自己成長を促しながら人間関係を構築させる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 進路手帳(スコラ手帳)を使い、「書く」「時間を意識する」「考える」を習慣化する。様々な場面で「書く」場面を設定し、きちんと「書く」「読む」「話す」力を育成する。  
 (2) 学科・コースガイダンスの実施や、LHR及び総合的な探求の時間を活用し、進路意識を醸成させ、自らの進路を主体的に考えていく心を育成する。  
 (3) 挨拶や言葉遣いなど徹底させ、互いを思いやり理解・尊重し、人間性や関係性を育成する。  
 (4) 部活動や地域の人々との交流活動を通して、社会性を築く力を育成する。  
 (5) 面談やカウンセリング、健康管理指導等によって心身両面で健康な生徒を育成する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準(秋田県教育委員会)

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) スコラ手帳を使い「書く」ことを徹底したかったが、個人差があり全体的には使いこなせなかった。	B
(2) 学科・コースガイダンスを数回実施することができ、LHR及び総合的な探究の時間を有意義に活用しコース選択に活かした。	B
(3) 年間を通して、挨拶や言葉遣いなど徹底させることができた。	A
(4) 部活動加入率が6割であり、意欲的に活動していた。農業体験や職場見学、ボランティア活動等にも参加することができ、地域との交流活動ができた。	A
(5) 学年全体で生徒の状況を共有し、問題や不安を抱えた生徒には個人面談を行うことによって支援をした。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 進路実現に向けて、学習はもちろんのこと自らの進路への意識付けをさせる。  
 (2) 整容や基本的な生活習慣を徹底させ、社会人としてのマナーや礼儀を身につけさせる。  
 (3) よりよい人間関係を構築する力を高めるための工夫をする。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 2年部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な生活習慣および学習習慣を定着させ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4資質を磨く。
- (2) キャリア教育を充実させ、進路意識を高める。
- (3) 体験的な学習活動や他者との関わりから柔軟な物の見方、考え方、感性を磨き、探究活動の内容を深める。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 進路手帳(スコラ)を使い、主体的・計画的に学校生活を送る意識を高める。また、さまざまな場面での「読む」「聞く」「話す」「書く」活動を通して、自己表現力を育てる。
- (2) 面談やインターンシップ、進路講話、職業選択のためのガイダンスを通して、自身の進路目標を具体化し、自己実現に必要な資質を自覚する。
- (3) ポジティブコーチング講座や修学旅行等、多くの人と幅広く関わる機会を通じて視野を広げ、課題を解決する力を育てる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
インターンシップや施設実習、修学旅行といった校外活動での事前・事後学習を通して4資質を磨く機会をもつことができた。進路手帳の活用には個人差があるものの、計画的に学校生活を送る一助となっている。	B
インターンシップや施設実習を通じて、社会人に必要な資質について学び、進路ガイダンスや面談等を通じて、具体的な進路目標について考えを深める機会を設けることができた。ただし、自信のなさや不安から主体的な行動に結びつかない生徒が多く、全体指導だけでなく個々への対応が必要となっている。	B
ポジティブコーチング講座を5月に実施し、クラス替え後の人間関係構築や他者との関わりへの意識づけに効果があった。また、クラスマッチや運動会、修学旅行を通じて、相互に関わり合う人間関係の広がりが生まれている。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・三者面談を適宜実施し、保護者との連携を密にする。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和 4 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 3 年 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 進路目標達成に向けて、主体的に取り組む能力と態度を育てる。  
 (2) 社会人基礎力（職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力）を養う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 自身の進路目標達成のために、どのような準備が必要であるか個人面談や学年集会、各授業を通して考えさせる場面を設け、自ら考え行動する力を育む。  
 (2) 総合的な探究の時間や実習、体験活動の充実を図り、社会人基礎力を身につけさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 個々の進路希望を学年部全員で共有し、適切な進路指導に努めた。 また、社会人としてのマナーを常に意識させるような指導を徹底した。	B
(2) コースの特色を活かした総合的な探究の時間、各種体験活動を実施し、活動を通して 社会人基礎力を身につけさせるよう努めた。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 進路決定に向けて、生徒・保護者との連携を図るために、夏季休業中の三者面談の計画・実施。  
 (2) 通常の授業を発展させた総合的な探究の時間の学習の充実を図る。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和 4 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 国 語 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎学力の定着を図る。  
 (2) 文章を的確に理解し、自分の言葉で適切に表現できる能力を身に付けさせる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 教科書や副教材等を活用し反復学習を実践する。  
 (2) 「電子黒板」や生徒個人の「タブレット端末」等、ICT機器を効果的に活用する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 考査前に、単元の学習内容についての総復習を、副教材を利用しながら行わせることができた。 漢字検定を意識した基礎事項の学習に対し、日常的に取り組みさせることができた。	B
(2) 電子黒板を利用して視聴覚教材を提示することで、学習内容の理解を深めさせることができた。 生徒の学習状況について、Googleフォームを利用してタイムラグなくクラスで共有することができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 学習の意義についても理解させつつ、基礎事項の定着に粘り強く取り組ませる。  
 (2) タブレット端末、またそのアプリケーションの授業への活用法について、継続して研究する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 地歴公民科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 資料を活用し、課題を解決できる力を身に付けさせる。  
 (2) 授業を通して、社会人としての基礎学力・教養を身に付けさせる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 地図や統計、画像などの諸資料を收拾し、有用な情報を選択して読み取りやまとめができるようにする。  
 (2) 授業で利用するプリントや課題をしっかりとまとめさせ、基本的な事柄や知識を身に付けさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT利用による地図や映像などの諸資料を有効活用できる機会が多くなり、授業の改善が進められた。さまざまな資料から読み取らせ、それを自分の言葉で発表や表現できる力の育成に努めたが、読み取るための考え方や見方はできるようになってきているが、表現できる力の育成まではもう少し継続した指導が必要である。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にプリントや課題を提出させて確認をしたり、板書内容をノートにまとめさせたりすることにより、基礎基本の定着を図ることができた。</li> </ul>	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- 今年度の「公共」に引き続き、次年度からは「歴史総合」という新科目に移行になることで、学習評価の改善や指導計画がスムーズに実践に移行できるように準備を進める。
- 考えて自分の言葉で表現できる力の育成に向けた授業改善。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 数 学 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎基本の定着を図り、数学へ対する苦手意識をなくし、学力向上を目指す。  
 (2) 生徒一人一人の能力をしっかりと把握し、個々に対応した指導内容や観点別評価の工夫と改善に努める。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 中学校までだけでなく、小学校段階までの学び直しを充実させ、生徒のつまづきを解消する。授業については、電子黒板やタブレットを用いるなど、これまでの授業を見直し、生徒が取り組みやすい指導方法を模索する。  
 (2) TTの授業を有効に活用し、困っている生徒がいればできるだけ速く対応しながら授業を進める。これまでの評価のあり方を見直し、観点別評価が適切に運用されるようにする。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 生徒の特性やつまづきに対して丁寧な指導を行い、わかる授業となるように電子黒板やタブレットを用いた。ICTについては、より効果的な活用方法が必要であると感じる。	B
(2) TTの授業では、それぞれの教員が役割分担をしつまづいている生徒に対して個別に対応することができた。観点別評価については、ある程度の方向性ができたが、さらに検討を重ねていきたい。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ICTの活用について、課題の提出をさせたり、定期考査に導入するなど学力の定着のためにできることを検討する。
- 観点別評価の在り方について、科目を修得することの重さも念頭において、適切に行われるようにする。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 理 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な学力を定着させる。  
 (2) 自然科学に興味をもたせるために生活に関連づけた内容などの工夫する。  
 (3) 生徒の防災・減災意識を高揚させる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 基礎的・基本的な内容に関しては、身近な例を挙げながら丁寧な説明と演習や確認テストを行い、授業内容の定着率を高める。  
 (2) 生徒が興味を抱くように授業の軸となる発問を研究する。生徒が自ら考え、表現し、自分の考えと仲間の考えを共有できる授業を工夫する。  
 (3) 過去や現在の災害について学び、日常または被災時にとるべき行動を考えさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
授業での発問や演習を通して、生徒に考えさせたり表現させたりし、また確認テストを平常時や考査前に実施したりして、基本的知識の定着をはかった。その時はよく覚えてきたり、問題を解けたりすることができるが、長期保持させることが難しい。	B
自然災害発生のメカニズムを学び、被災したときにどのように行動すべきかを考えさせることができた。また、様々な科学技術が生活の質の向上に役立っていることについて気づかせることができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

理科を不得意とする生徒に対して、学ぶ意欲を維持させられるような発問や取り組みを検討していきたい。

## 5 その他、要望等

不要な薬品の処分を行って欲しい。



令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 保健体育 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的事項の徹底を図り、健康で安全な生活に留意させる。  
 (2) 生涯にわたって運動に親しむ姿勢を定着させ、健康で安全な生活を送ることができる技能と知識を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 集団行動などを通して、周囲を考慮しながら行動し、しっかりとした態度を身に付ける。  
 (2) 基礎的、基本的な運動能力の更なる向上を目指し、反復練習に励む。  
 (3) ゲームなどでの的確なアドバイスや指示ができるようにルールなども把握する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
全クラスに集団行動を実施したが、1年生は時間数が足りず、発表まで徹底することができなかった。 挨拶後の準備運動はしっかり徹底できて、怪我防止に努めることができた。	B
年間指導計画通りに各種目実施することができた。 個々の運動能力には差があるが、能力別にグループ分けをしたり、動画や、ホワイトボードを使つて的確なアドバイスや指示ができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

1年生は2単位なのでもう少し時数に余裕を持って取り組んでいきたい。また、学校行事に合わせた指導計画を徹底したい。  
 新体力テストを実施したが、どの種目とも秋田県平均より低く、体づくり運動や体力がつく補強トレーニングを多く取り入れたい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 芸術科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な音楽の諸能力を養う。  
 (2) 主体的に学習に取り組もうとする態度を育成し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 歌唱・器楽・鑑賞の諸活動の中で様々な種類の楽譜を読み取り、演奏実践を通じて読譜力を向上させる。  
 (2) 各自の興味関心に応じて課題を選択させるなど、ICTを活用した学習を効果的に取り入れ、効果的な教材の与え方を工夫するとともに、芸術・文化が日常生活に繋がっていることを理解できるように他分野と関連付けた授業の展開を工夫する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>YouTube動画を利用した器楽演奏の実践に取り組み、演奏の手本を聴きながら画面上に示された楽譜を読み取ることで、旋律やリズムの理解を深めることができた。五線譜に関しても、基本的な読み取りが定着してきた。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>クロームブックを活用して、演奏を録画して振り返ることで技術向上をはかることができた。またオペラ作品や作曲家について調べた内容を発表する等の活動を通して、楽曲の時代背景に対する理解を深めることができた。今後は学習した内容をふまえて、自己表現活動を充実させることが次の課題である。</li> </ul>	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- 器楽に加えて歌唱活動を充実させ、より主体的・積極的な自己表現にチャレンジする。

## 5 その他、要望等

- コロナ禍でも可能な範囲で学校行事の中でも歌える状況を整えられればと思います。(整列時の間隔を広げる、歌える雰囲気をつくる、等…)

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 英語科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 新学習指導要領やCAN-DOリストを踏まえ、5領域（技能）の基礎の定着に向けたアクティブラーニングの実践を図る。
- (2) 外国語やその文化に対する興味や関心を伸ばすために、ALTのさらなる積極活用を図る。また、積極的に英語でコミュニケーションをする態度を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) シラバスやCAN-DOリストを活用しながら、生徒と職員による協働学習と生徒間同士の主体的、対話的学習を視野に入れて普段の授業を構成し、実践していく。
- (2) 英語を使わせるという意識に立ち、教材や諸活動の精選を図りながら授業を実践していく。また、ALTとのコミュニケーションをよく図り、よりよいT. T. の実践に努める。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 新学習指導要領に沿って、5領域（技能）の伸長を考え、対話的、実践的な学習活動を概ね行うことができた。また、必要に応じてICTを利用しながら、主体的に学びの実践につなげることができた。	A
(1) CAN-DOリストをこまめに活用しながら、学習活動を計画的に進めていくという点では課題が残る。もう少し振り返りの時間を計画的にもつべきだった。	B
(2) T. T. を通して、ALTを積極的に活用し、異文化だけではなく、片言でも英語を話してみよう、話してみたいという気持ちの醸成につなげることができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

・新学習指導要領下における評価方法とICTの効果的な活用方法のさらなる研究

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 家庭科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 自らが生活課題を主体的に判断し、責任ある消費者として行動できる能力を育てる。  
 (2) 思いや意見が異なる相手と協力しながら目的を達成する力を育む。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 新聞やインターネットなど各種情報を活用し、責任ある消費者として地域だけでなく日本や世界に目を向け国際的な視点や感覚を磨く。  
 (2) タブレットを活用し他者の意見や考えに触れながら、自分の考えをより良いものにし、目的を達成する授業の充実。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 読売新聞教育ネットワークを活用し、単元の学習内容の理解を深めるだけでなく、日本以外の地域のデータも取り入れながら視野を広げ国際的な視点を育てた。	A
(2) ICTを効果的に取り入れ、個人の考えから全体の考えへと広げ、様々な意見や考え方に触れ理解を深めた。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 実験・実習の充実と外部講師を活用した授業構想。  
 (2) 生徒がリーダーシップをとり、授業の内容をより深めていくことができるような題材の選定。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 情報科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動をとおして、情報に関する科学的な見方・考え方を養う。
- (2) 情報と情報技術と適切かつ効果的に活用し、主体的に参画するための資質・能力を身に付ける。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 情報の収集と精選、活用等について、実習を通して身に付けさせる。
- (2) 情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度である「情報モラル」の様々な側面と情報化の影の部分に関する教材について、お互いの考えを共有できる場面を計画的に設定する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
タイピング練習については、年間をとおして毎時間練習を行わせ、継続して力量が向上するようにした。また、定期考査に合わせて、タイピングのテストも実施したことにより、目標をもって取り組む姿勢が見られ、年度当初よりも皆、確実に向上することができた。	A
情報に関するセキュリティやモラル等の重要な点について、プリントやパワーポイントを作成して、効果的に活用して提示するように工夫した。Googleフォームの課題を作成して取り組ませることも行った。 プログラミングについては、マイクロビットのプログラミングを行い、パワーポイントを効果的に活用することで、皆熱心に取り組むことができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

情報については、1年生のみならず、2年間に渡って、じっくりと繰り返しながら継続して、情報モラルやセキュリティについて行う必要があるように思う。

プログラミングの学習したことを昨年度に続いて、地域の小学生親子に対して、プログラミング体験教室で先生役となり教えることを行うことで、地域貢献への意識の醸成と自信をもつことにつながるため、今後も継続していくことが望まれる。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和 4 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 商業 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) ビジネスの諸活動における基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。  
 (2) 主体的に課題解決に取り組み、経済社会で実践できる能力を養う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 机間指導や個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。  
 (2) 課題演習や資格取得、探究型学習を通して、主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 生徒の実態に合わせて学習内容を精選・工夫した。基礎的・基本的な内容を重視しながら、学習に取り組ませることができた。ICTの活用にも取り組んだ。	A
(2) 3年生は、総合的な探究の時間と連携し、校外学習や地域探究学習を行った。発表の場を設け、生徒の主体性を引き出すことができた。資格取得にも力を入れることができた。2年生は、知識を身に付けることに偏ってしまったところがある。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・ 学力および学習意欲の低い生徒への対応
- ・ 新学習指導要領、新教育課程への対応
- ・ ビジネスコースの総合的な探究の時間との連携

## 5 その他、要望等

特になし。

令和4年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 福祉科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 福祉のこころ・思いやりのこころの確立  
 (2) 確かな専門性と知識や技術の習得、態度の育成  
 (3) 介護福祉士の受験資格取得と進路実現

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 福祉のこころ・思いやりのこころの確立  
 ① ボランティア活動をとおして地域との関わりを深める。  
 (2) 確かな専門性と知識や技術の習得、態度の育成。  
 ① 実技指導を繰り返し行うことによって、介護の専門的知識と技術を向上させる。  
 ② 授業ノート・課題プリント・実習記録等の提出を徹底させ、「書く力」と「伝える力」と自ら学ぶ力を育成する。  
 ③ コミュニケーションの基本である傾聴の大切さを理解させる。  
 ④ 感謝の気持ちを持つことを忘れずに、日常生活の基本的なマナーや正しい言葉遣いを徹底させる。  
 (3) 介護福祉士の受験資格取得と進路実現  
 ① 補習を継続する。(平日、土曜日、長期休業)  
 ② 施設実習をとおして、福祉の現場との連携を強化し就職活動に結びつける。  
 ③ 新1年生に対して福祉科選択者が増える魅力的なガイダンスを実施する。  
 ④ 模擬試験の実施、添削指導を強化し、さらなる知識・技術の定着を図る。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) ①CSの協力により、学校の周囲の歩道に芝桜を植えるなど、コロナ禍以前のようなボランティア活動が実施できた。	A
(2) ②(3) ② 施設実習は施設の協力により、可能な限り実施させていただいた。また、施設実習を学校で実施した際は、下書き用のノートを毎回指導し、より「書く力」「伝える力」の育成に取り組むことができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・施設実習が急遽中止になった場合の授業（校内実習）のあり方。  
 （無理なく実施できるよう計画したい。）

## 5 その他、要望等

- ・実習日 朝に使用できる検査キットを要望したい。

